

科学と芸術の結びつきは、レオナルド・ダ・ヴィンチの解剖スケッチなど、古くから医学領域において顕著に認められる。近代医学の発達とともに、19世紀初頭には皮膚科や性病科などの新しい専門分野が成立したが、ここでは二次元平面の図版では伝えきれない情報が多々あった。1800年代初頭、欧州で数名の医師が、加工しやすい蠟に注目し、三次元標本「ムラージュ」制作を試みているが、このムラージュが実際に医学教材・標本として大学病院等で日常的に製作・活用されたのは約1世紀を経た1900年前後になってからだった。

本コロキウムでは、まず見世物から医学標本への変遷あるいは畸形の問題について、実在したプロテウス症候群患者ジョセフ・メリックを主人公とする『エレファントマン』による文化的側面からアプローチを試みる(横山)。次いで1900年前後の日独医学交流について皮膚科を例に、日本における大学お抱えムラージュ師の系譜をたどる(石原)。最後にドイツで活躍した異端のムラージュ師で、目黒寄生虫館にも彼の模型が展示されている沼田仁吉の経歴と作品を紹介する(檀原)。3名の研究発表後には、会場を含めたパネルディスカッションを予定している。

発表者のプロフィールと要旨

2013年3月18日(月) 14:00-17:00

東京大学 駒場キャンパス 18号館4階コラボレーションルーム1

横山 千晶(よこやま ちあき)

慶應義塾大学法学部教授。慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程修了。専門は19世紀のイギリス文学およびイギリス文化。当時の表象文化、および身体研究が研究テーマのひとつである。関連業績に『身体医文化論 感覚と欲望』(共著、慶應義塾大学出版会、2002年)、『産む身体を描く ドイツ・イギリスの近代産科医と解剖図』(共著、慶大出版会、2012年)がある。

檀原宏文(だんばら ひろふみ)

北里大学名誉教授、北里柴三郎記念室客員研究員。1977年東京大学大学院第三基礎医学博士課程修了。東京大学医学研究所助手、さらに北里研究所細菌部室長を経て、1992年、北里大学薬学部教授(細菌学)。サルモネラの病原性を研究した後、2010年から、明治時代黎明期のわが国細菌学に関する研究を開始。最近の研究に、「ラウソンレポート、2012」がある。

石原あえか(いしはら あえか)

東京大学大学院総合文化研究科准教授。慶應義塾大学大学院在学中、留学先のドイツ・ケルン大学でDr.phil.取得。専門分野は、ゲーテと近代自然科学。ドイツ語単著Goethes Buch der Natur (Würzburg 2005)により、DAADグリム兄弟奨励賞、日本学術振興会賞および日本学士院学術奨励賞受賞。2010年、『科学する詩人 ゲーテ』(慶大出版会)によりサントリー学芸賞受賞。関連業績として横山との共著『産む身体を描く』および単著『ドクトルたちの奮闘記 ゲーテが導く日独医学交流』(いずれも2012年、慶大出版会)がある。慶應義塾大学商学部教授を経て、2012年4月より現職。

今回の発表では19世紀のロンドンに生きた一人の青年、ジョセフ・メリックに焦点を当てたい。彼に「エレファントマン」という呼び名を与えたのは、全身の皮膚と骨を冒していくその病気のためであった。しかし彼の死後、20世紀になってメリックの身体は、視覚的な表面の裏に隠された「美」の体現として人間の尊厳の賞揚と差別否定のために使われただけでなく、1960年代後半からは逸脱者の美学の象徴ともなった。この発表では異常な身体がそれぞれの時代の中で持つシンボルと物語を追ってみたい。

沼田仁吉(1884-1971、富山県生まれ)は「異端」のムラージュ作者であった。伝染病研究所(現在の東京大学医科学研究所)に馬30頭の世話人として採用された。信濃川での恙虫病研究に貢献し、ドレスデン万国衛生博覧会(1911年)における日本館展示の国際的な評価を高めたが、退職時は蒸留水の製造担当者に過ぎなかった。今回は北里柴三郎記念室に残されている沼田独特の蠟模型やムラージュを紹介し、また当時の研究者と研究補助者との関係を考えてみたい。

詩人ゲーテは、早くから医学教材としてのムラージュの価値を見抜き、その有用性を説いた。だが彼の主張が認められ、実際にムラージュが普及するまでにはそれから1世紀近くを要した。今回は日独両国の皮膚科ムラージュ導入に重要な役割を果たした東大教授・土肥慶蔵(1866-1931)の仕事を裏方として支え続けた同郷・福井出身の芸術家にして稀代のムラージュ師・伊藤有(1869-1934)および彼が育てた弟子たちを紹介する。あわせて現存する日本のムラージュの状況も報告したい。

アクセス:井の頭線 駒場東大前駅下車



主催: 日本学術振興会科学研究費助成事業・基盤研究(B) (研究代表者: 鍛冶哲郎)
「科学の知と文学・芸術の想像力—ドイツ語圏世紀転換期の文化についての総合的研究」

問い合わせ先:

東京大学 大学院総合文化研究科 鍛冶研究室

〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1

E-mail: wissen@phiz.c.u-tokyo.ac.jp URL: <http://phiz.c.u-tokyo.ac.jp/~wissen/>